

災害時の外国人支援に関する 地域国際化協会と行政等との連携について  
「NIC災害語学ボランティア」と「なごや災害ボランティア連絡会」

財団法人 名古屋国際センター  
交流協力課 主事 近藤 公彦

## はじめに

よい協定とは？ 平時からの連携に向けて  
協定の役割とは？ 社会的リソースと行政のイニシアティブとの結合の戦略として

### 1. 名古屋国際センターの災害時外国人支援 二つの協定

#### (1) 「NIC災害語学ボランティア」

##### ア 「NIC災害語学ボランティア」(H13年度創設)

- ・災害時に日本語の理解が十分でなく必要不可欠な情報を得ることが困難な外国人を支援
- ・随時募集。18言語279人が登録(H19年8月末)
- ・年1回 訓練、研修を実施

##### イ 「災害語学ボランティアの活動に関する協定」(H13年度～)

- ・名古屋市の地域防災計画の一環
- ・名古屋市の要請を受けて活動。震度5強の地震発生時は指定活動場所(区役所等)に自動参集
- ・活動経費は名古屋市が負担
- ・区役所担当課に毎年派遣マニュアル・ボランティア名簿を配布

##### ウ 「災害語学ボランティア」の課題

- ・絶対数の不足
- ・必要言語と登録言語のギャップ
- ・災害知識の不足
- ・制度の認知度の不足

#### (2) 「なごや災害ボランティア連絡会」(H18年7月設立)

##### ア 趣旨

平常時から連携とネットワーク化の推進を図るとともに、防災に関する啓発活動を協力して実施することにより、災害時におけるボランティア活動を円滑に推進する

##### イ 構成団体

災害ボランティア団体、市、および関係機関

## ウ 活動内容

- ・構成団体相互の情報交換や、防災啓発行事への参加、出展等による啓発活動の実施等
- ・毎月1回、第1木曜日に定例会を開催
- ・毎年1月開催の「防災&ボランティアフォーラム」(県・市主催)にブースを出展
- ・災害ボランティアセンター設置運営図上訓練(区役所・区社協職員も参加)実施

## エ 外国人支援における意義

- ・地域の防災活動の中に外国人という視点を埋め込む機会
- ・ネットワークにより防災知識、関連リソースの不足を補う
- ・多文化共生の社会づくりを進める一つの回路として

## 2. 連携の経緯

### (1) 災害ボランティア活動支援への名古屋市のとりくみ

#### ア 人材育成

- ・災害ボランティアコーディネーター養成講座
- ・修了者による市内各区での防災ボランティア団体立ち上げ

#### イ 協働

- ・「災害時における一般ボランティアの受入活動に関する協定」
- ・ボランティア団体と行政の協定
- ・平時の連携を規定 「顔の見える関係を」

#### ウ ネットワーク化 = 「なごや災害ボランティア連絡会」

- ・「協定」を核に連携を拡大 防災は「総力戦」

### (2) 「協定」の背景

- ア 名古屋市 地域防災計画
- イ 東海豪雨(H12)の教訓
- ウ NGOとの連携

## 3. 協定を考える

- (1) 役割：行政による公式の認知 PR、連携の促進の梃子
- (2) 内容：災害時に備えた平時の連携が焦点
- (3) 展望：広域・近隣連携の必要性

名古屋国際センター 交流協力課 民間交流係	052-581-5689
名古屋市 市民経済局 地域振興課 市民活動係	052-972-3128